



バプテスト心身障害児(者)を守る会  
**愛の手を**

第218号  
 発行責任者 社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会  
 重症心身障害施設 久山療育園  
 重症児者医療療育センター  
 理事長 宮崎信義  
 編集責任者 鍋山泰三  
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
 ☎(092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

「新年のご挨拶」

理事長 宮崎信義

「新しくされて」生きる  
 久山療育園の創立聖句であるコリントの信徒への手紙二4章18節「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」という聖書の言葉から、「新しくされて生きる」ことを思い起こしたいと願います。

「新しくされて」生きる  
 エフエソの信徒への手紙4章24節に「神にかたどって造られた新しい人自身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようになければなりません」と記されています。堅苦しいと思われるかも知れませんが、新年こそ身を正すチャンスでもあります。そして、その新しくされた思いから日が差してくる年が開かれるとも思います。

「新しくされて」生きる  
 ヨハネによる福音書3章で、イエスは「よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない(3節)」と言われましたが、ユダヤ人の指導者(最高法院の議員)であるニコデモは、夜をこっそりとイエスを訪ね、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にいらして生れることができませんようか(4節)」と応えています。

ニコデモはまず、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなら、わたしたちもできません(ヨハネによる福音書3章2節)」と、イエスの人間ではなし得ない力に注目しています。「しるし」は、人の目を開かせる出来事ですが、往々にして人の向くべき方向を誤らせます。それでイエス様は福音書を通じて、しばしば「このことを誰にも話さないように」と言っておられます。

3節では、「神の国を見ること」が話題の中心になり、そのためには「新しく生れること」が必要だと主は言っておられます。本来、「神の国」は「神の王的な支配」を表す終末的な概念であり、イエスの宣教の中心を成すものですが、ヨハネ福音書ではここにしか出て来ません。また神の国は、「永遠のいのち」と不可分の概念として語られます。

おわりに  
 年頭に当たって、「重症心身障害児(者)と共に」生きる私たちが、まず新しくされて、一人一人に仕え、支えて行けることを願っています。今年もよろしくと「共に在る」方々にご挨拶申し上げます。

2025年の新年で思い出すことは、21世紀に入ってから四半期が経過したということだと思います。21世紀こそ「人間の世紀」という期待から始まったと記憶しています。しかし、5年前から新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的流行)が日本にも第1波をもたらし、決して悲観的にとらえていたのではありませんが、新年に当たって、最重度の障がいを持つ「重症心身障害児(者)」と共にある者として、利用者や職員、ボランティアの皆様の健康と暮らし、「生命の尊厳」を第一に考えたいと思います。

「新年」聖書から  
 古代イスラエルでは、新年が春であったか秋であったかについての定説はありません。今日の新年祭については、新年を迎える備えとして人々は審判者なる神への悔い改めの時を過すとされています。年の初めに「悔い改め」とは縁起でもないと思われるかもしれませんが、「悔い改め」ることこそ「新生」の出発点だと思います。

## 理念と展望

## 創立理念と展望「2025年の新年を迎えて」

理事長 宮崎信義

## はじめに

2025年は、日本に於いては1945年8月の第二次世界大戦敗戦から80周年を迎えます。日本軍国主義が犯した大きな過ちで、アジア諸国に対して1000万人とも2000万人とも言われる膨大な計量不可能な死者を生み出し、また自国民も300万人以上の死者（戦死、戦災）が生じたと言われます。

現状では、2022年2月24日にロシアのウクライナ侵攻、そして2023年10月7日にはイスラム組織「ハマス」のイスラエル侵攻とイスラエル軍のガザ地区への侵攻で双方に多くの死者が出ています。年頭に当たってのふさわしい挨拶ではありませんが、平和を希求する大切さから始めたいと願うものです。

## 第4回運営協議会から

2024年10月18日（金）に第4回運営協議会が開催されました。「持続可能で理念に合う重症児者施設の今後の役

割」という主題で報告と熱い協議がなされました。協議会の目的は、設立理念の継承と維持、地域福祉の推進への貢献として、将来に向けて、課題を共有し対策を協議することです。特に2026年の開園50周年に向けて将来展望が意識されています。新型コロナウイルス感染症対策で第3回運営協議会（2019年11月8日）以来、5年ぶりの開催となりました。参加対象者は、運営協議会委員7名、役員（理事・監事）、評議員、保護者会、職員（課長職以上）で、参加者合計は39名で、うちZoom参加者が5名（Web参加）おられました。

## 発題Ⅰ 「久山療育園の設立

理念とキリスト教社会福祉」  
設立理念に立ち、重症心身障害児（者）と支援者の生命を守る久山療育園（発題者

## 宮崎信義理事長、発題Ⅱ

「久山療育園と新型コロナウィルス感染症」（発題者 岩永知秋センター長）と以下の喫緊の課題から3名の方が提言し

て下さいました。

提言Ⅰ 「持続可能で理念に合う重症児者施設の今後の役割」  
設立理念の継承と維持の視点から。提言者は平川宣就新評議員（久山町地域学校協働本部地域学校協働活動推進員）で、提言の要旨は、「私は31年の教員生活の中で、久山療育園に長く関わりを持たせていただく幸運に恵まれた。私の教員生活のスタートは久山療育園での訪問教育であった。園の子どもたちや職員の方々との関わりを通して、特別支援教育の基礎的な内容を私なりに学ばせていただいたことを深く感謝している。久山療育園は、今年で設立48年を迎えた。時代の経過とともに国の施策や、園のサービスの形態、入所者、職員の実態も異なってきた。しかし、時代は変わっても久山療育園の理念は普遍であり、その具現化がその時代、時代に合せて課題となってくるものと思われる。私の提言では、久山療育園の理念・療育基本方針に照らし、学校教育が果たしてきた役割を振り返るとともに、高齢化した入所者への充実したサービスに向けて、より連携を深めていくきっかけ

けになればと思う」と教育者の経験から述べられました。

提言Ⅱ 「通所利用保護者の立場から久山療育園に期待すること」  
特に利用者ご家族の立場から、切実な訴えがなされましたので、要旨を述べさせていただきます。提言者は通所利用保護者 松永ヒデ子、安河内清美。

①入所待機について：「現状」  
「契約入所は満床、待機者リストに入っても、いつ入所できるか分からない。生活の質を考えると、自分自身の大切な身内（子ども）が、安心して入所できる入所先が少ない。保護者は高齢化しており、だんだん切羽詰まってきた。他の家族の介護負担が増えているケースもある。年齢の若い保護者も、さまざまな事情で入所希望があると聞く。「久山療育園に期待すること」

増床を検討してほしい。将来必要となった時に入所がスムーズにできる体制がつけられると、在宅障がい児・者の大半の不安が解消される。入浴、リハビリ、余暇などを充実してほしい。

②短期入所利用：「現状」希望する日に予約がしにくい。入所中のケアに不安がある。コロナ禍の影響で、利用制限がかかっている（久山が守りに入った運営をしているように見える）。入所アナムネ時に伝えたいことが、交替するスタッフに伝わっていないことがある。短期入所中のケアとして、きちんと見てほしい（最低限、元気に帰ってきてほしい）。「久山療育園に期待すること」  
短期入所専用病棟ができないか？業務の在り方を、変化を怖がらずに改善してほしい。

③久山外来が「かかりつけ」  
隣の医療機関にかかりにくい。「久山療育園に期待すること」  
困っている人がいたら、主治医になつてほしい（診てほしい）。

④送迎サービス充実：「現状」  
自家用車の運転がいつまでできるか分からない。通所に来られなくなるかもしれない。「久山療育園に期待すること」  
通所送迎サービスを充実させてほしい。

提言Ⅲ 「今後の人材確保に向けて」  
久山療育園における目的と取り組み。提言者は島津洋昭療育指導室長。

厚生労働省の調査によると2025年に向けて、必要な

介護人材数は「約245万人」と言われている。また、要介護者等の増加に伴い、年間約6万人の人材を確保する必要があるとされている。

平成12年に約54万人であった介護職員の数は年々増加しており、平成27年には180万人を超えるまでとなっている。しかし、実際には介護業界の約65%が「人手が不足している」と感じているのが現状である。

この「人手不足感」は介護の現場によって異なる。訪問介護にいたっては、実に8割以上が人手不足を訴えている。このような人材不足の理由として大きく挙げられているのが、新たな採用が困難な介護業界の現状にある。

平成30年度の介護業界の採用率は、18.2%で、他産業の採用率15.4%と比べても高いことが分かる。しかし、人材確保の妨げとなっているのが、同業他社との競争や介護業界の労働条件、特に、景気が良い時期には介護業界には人材が集まらないといわれていることが考えられる。

将来的に多くの人材が必要であるにも関わらず、依然として現場の不足感が払拭でき

ないことは、介護業界の大きな課題となっている。

重症心身障害児者の支援を行っていくうえで、人材（人材）の確保は急務である。

そこで、久山療育園における人材確保に向けた今後の課題を明確にしなが、今後、取り組んでいくべき方向性について検討・考察した結果の報告を行う。

### 質疑と全体討議【要旨】

Q. 保護者から…利用者の年長化と保護者の高齢化が進んでいる。自宅で家庭療育を望みつつも、入所待機登録を行っているが、入所待機者が増加している。緊急の対応も予測されているが増床（契約及び短期入所）は出来ませんか。

A. 行政の姿勢は在宅中心で施設の新設や増床は困難です。また医療法で許可されている入所（入院）利用者が1人でも超過すると厳しい指導もありました。入所利用者1人当りの病床面積には基準があり、現在の最大限の病床容積は処置室を転用しても増床が可能な面積は1床×2床です。その現状に対して、入所待機者は40名にも及びます。

・重症心身障害児・者施設（国立病院機構も含めて）の適正な背景人口は約30万人と言われ、全国でも設置数が多い福岡県でもその基準には達してはいません。まして久山療育園の利用者の利用地域の背景人口は約1000万人と推定されます。

・先年、厚生労働省の通達で「主たる重症心身障害児者医療事業を行っている敷地は取得することが望ましい」とあり、その以前から支援者の寄付金等を基本財産に蓄積した基金を設けていましたが、新型コロナウイルス感染症対策の出費等で減少しつつあります。また地元の所有者（財産管理組合）にも譲渡を長年に渡ってお願いしていますが、財産管理組合の運営に毎年の借代を充てているという理由から断られています。今後も請願を続けて参ります。

### 真の平和（キリストの平和）を求めて

コロサイの信徒への手紙3章15節に、「キリストの平和があなたがたの心を支配するようになさい。この平和にあらずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされ

たのです」と記されています。

またキリストの平和は、救い主キリストご自身が「ご自分の肉によって」なされたものであり、律法が人の力では越えられない「隔ての中垣」になってしまった時、神は御一人子を世に遣わされその御子の肉、すなわちキリストの十字架の贖いによって律法を完成され、廃棄されたのです。このキリストの平和は、新たな創造であり、「二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまふ」神の力であることが示されています。（エフェソの信徒への手紙2章14～16節）

### 「平和の祈り」フランチエスコ

「主よ、わたしを平和の道具とさせてください。わたしが憎しみのあるところに愛をもたらすことができるようにしてください。罪のあるところにゆるしを。争いのあるところに一致を。――中略――愛されることよりも、愛することを望ませてください。」

この「平和の祈り」は、1913年に修道士の聖フランチェスコによるもので、一般に「聖フランチェスコの祈

り」とも呼ばれています。

### 全国重症心身障害児（者）を守る会の三原則

① 決して争ってははいけない。争いの中に弱いものの生きる場はない。② 親個人はいかなる主義主張があっても重症児運動に参加するものは党派を超えらるること。③ 最も弱いものをひとりももれなく守る。

この「守る会の三原則」は1981年（昭和56年）の全国重症心身障害児（者）を守る会第18回大会にて「会の三原則」「親の憲章」が制定されたものです。

### おわりに

私たち「重症心身障害児（者）」と共に在る「者」として、この保護者たちの声に応答して、先駆けて「平和を守り」「平和を作り出す」ものとして在りたいと願うものです。



人のからだと病氣

第22回

## 「間質性肺炎とは何か？」

センター長／理事 岩 永 知 秋

「愛の手を」203号では「肺炎」について解説しました。近年、有名人の死亡原因にもときどき「間質性肺炎」という病名が発表されるようになりました（元中日投手杉下茂さん、作家平岩弓枝さん、テレビ司会者上岡龍太郎さん、古くは美空ひばりさんなど）。肺炎はよく耳にされる言葉だと思えますが、それに「間質性」という語がつく肺炎とはどのような病氣なのでしょうか。

## ■肺炎と肺胞の構造

ふつう、「肺炎」と言えば細菌など病原菌による肺炎の炎症を指します。このとき「肺」とは肺胞を意味します。それでは肺はどのような構造なのでしょう。

ヒトでは気管は左右に分かれて気管支となり、1本が2本、2本が4本と枝分かれし、肺胞という部屋に達するまでに20回近く枝分かれします。枝分かれのたびに気管支の直径はどんどん細くなります。

ちょうど木の根がどんどん伸びるとともに、その内径がどんどん細くなるのをイメージしてもらえばいいと思います。そして枝分かれした気管支が最後に到達するのが、肺胞という小さな部屋です。その大きさは約300ミクロン（およそ0.3ミリメートル）です。健康な人の肺は、両方の肺を合わせて約3億個の肺胞という部屋から成り立っています。肺の構造は蜂の巣を思い浮かべてもらえばわかりやすいでしょう。肺を輪切りにすれば蜂の巣のような中身が見えてきます。このとき、肺胞の部屋の壁の部分が「間質」、肺胞の部屋の中（空っぽです）が肺胞の中身となります。この空っぽの部屋の中に炎症が起きるのが、感染症の肺炎です。ここに病原菌が入ってくると、からだは自分を守るために白血球やマクロファージという細胞（そうじ屋さんです）を動員します。病原菌をやっつけるためにこれらの細胞が戦う結果、炎症反応と呼

ばれる現象が起こります。すなわちいろいろな炎症性物質が部屋の中に動員され、部屋の中が浸出物などで満たされることとなります。これが感染症によっておこる典型的な肺炎のパターンです。肺の多くの部屋（肺胞）がこれによって、いわば水浸しになります。そのため重症の肺炎では、気管支を経て肺胞に来るべき酸素が少なくなってしまう、身体に酸素を取り込むことができず低酸素となってしまう。しかし多くの肺炎は適切な治療（細菌性肺炎では抗菌薬投与）により、あまり跡形を残さず治ります。部屋をうずめていた炎症性の細胞や液体が消失するためです。

## ■肺の間質と間質性肺炎

間質とは肺胞という部屋の壁だと言いました。病原菌による肺炎が部屋の中に起こるのに対して、間質性肺炎は部屋の壁に炎症が起こるので、間質性肺炎は部屋の空間ではなく、蜂の巣の部屋の仕切り（壁）に炎症が起こるのです。健康な肺ではこの仕切りはとても薄く、換気により気管支を通して肺胞の部屋に入ってきた酸素は、しみ込むようにしてこの部屋の仕切り

（壁）の中を走る血管に入りま

す。その後酸素は血液循環によって全身に配られ、エネルギーを生み出します。私たちの家の部屋を考えると、6畳の空っぽの部屋があると思います。部屋には床、壁、天井がありますね。部屋が水浸しになるのが、いわゆる肺炎、つまり病原菌による肺炎です。間質性肺炎はこの部屋の中ではなく、床、壁、天井に炎症が起こるので、肺炎の床、壁、天井は極めて薄くてできています。炎症で動員される細胞は、病原菌による肺炎とは異なりますが詳しい話は避けましょう。炎症が床、壁、天井に起こるとこの部分が炎症によってふくれ上がります。この部分がひどく腫れてしまうと、肺胞の部屋は狭くなります。また肺胞自体が硬く縮んでしまいます。もっと重要なことがあります。肺胞には気管支を経た運び来ってきた空気中の酸素がたどり着きます。そこから極めて厚さの薄い肺胞の壁にある毛細血管に酸素が運ばれ、血液に入った酸素は全身に運ばれて、エネルギーを生み出すのでしたね。ところがこの壁が間質性肺炎で分厚くなる

とどうなるでしょう。酸素は

## ■間質性肺炎とは

壁の中の毛細血管に入りにくくなり、血液に酸素が運ばれにくくなるのです。これがからだの低酸素を招くのです。

間質性肺炎の原因は、一部を除けば基本的に感染症ではありません。この点が、いわゆる細菌性の肺炎と最も異なる点の一つです。また、もう一つの大きな違いは、ごく一部は急性の炎症を起こすものの、間質性肺炎の大部分は慢性の炎症です。肺胞の壁を中心に慢性炎症を起こすので、これによって肺胞の壁は分厚い状態を持続することになり、次第に進行することが少なくありません。間質は慢性炎症の結果、線維成分が増える線維化という現象をおこしていきます。また、その総体として、肺全体も硬く縮んでいきます。別名肺線維症と呼ばれるのはこのためです。さらに問題となるのは、この炎症が何らかの原因で急に燃え上がることです。これを急性増悪（悪化）といいます。この悪化はからだにさらに高度の低酸素を招くため、からだを深刻な状況に追い込み、生命を脅かすことがあります。間

質性肺炎の恐るべき特徴ともいえます。もともと炎症のあとに線維成分が増えて分厚くなった部屋の壁は、この急性増悪によってさらにむくみがひどくなり、血液への酸素の取り込みがさらに悪化する結果、からだ全体が低酸素素になつてしまいます。

■分類と診断

間質性肺炎の原因には、放射線や薬剤など医原性（治療などによる副作用）のもの、関節リウマチを代表とする膠原病に伴うもの、過敏性肺炎など、比較的原因が明らかでないものがあります。間質性肺炎の多くは原因がよくわかっていません。これを特発性（原因不明）と位置づけ、特発性間質性肺炎と呼びます。特発性間質性肺炎の代表が特発性肺線維症と呼ばれるものです。そしてこれらの特発性間質性肺炎のうち、慢性、進行性的特徴を持つものを、とくに進行性線維化を伴う間質性肺疾患と呼び、最近注目が集まっています。

間質性肺炎の診断はどう行うのでしょうか。まず自覚症状としては、乾いた咳、動いたときの息切れ（進行すると安静時にも）が前面に立ちます。

細菌性肺炎とは異なり、増悪時を除けば発熱はなく、喀痰も少ないのが特徴です。診断においては画像診断、とりわけCT（高分解能CT）が重要です。これにより、通常の細菌性肺炎とは異なる特徴を捉えることができます。また、血液検査で間質性肺炎のマーカー（目じるしの意味で、KL-6、SP-A、SP-Dなどがあります）や膠原病に関する自己抗体などを調べ、重症度の判定には呼吸機能検査が行われます。必要に応じて肺生検（肺の組織を採って病理検査を行う）や気管支肺胞洗浄などの詳しい検査を行います。

■治療

放射線による間質性肺炎にはステロイド薬、膠原病による間質性肺炎にはステロイド薬や免疫抑制剤など、原因が明らかでない間質性肺炎にはある程度確立された治療が行われます。これに対して原因が不明の特発性間質性肺炎は、その起こる原因やメカニズムが解明されていません。したがって、まだ安定して有効な治療法が確立されていません。線維化を抑える抗線維化薬などが病気の進行を抑える可能

性が示唆されています。また、急性増悪に対しては、大量のステロイド薬などが使用されますが、これも効果が一定しているというわけではありません。間質性肺炎ではその人が持つ肺炎の特徴を細かく吟味し、それに応じた治療を個別に行うのが通常です。今後さらに有効な治療法が開発されるためには、その原因やメカニズムが詳しく研究される必要があります。

■聞きかじりのお話

間質性肺炎とは全く関係ないですが、最近読んだ本からです。名前の語源に関するミニ情報です。ウクライナ紛争は収まる気配がありませんが、北朝鮮から軍隊が派遣されるなど、戦況はいよいよ混沌の度を深めています。ロシアのプーチン大統領のファーストネーム「ウラジミール」はスラブ語の語源から、「平和な世界の支配者」だそうです。「平和な」というのは悪い冗談としか思えません。一方、ウクライナのゼレンスキー大統領の名前は「ヴォロディミール」で、ロシア語で読めばこれも「ウラジミール」となり、ロシアに名前でも対抗する名前だと言えます。米国に目を転じ

れば、大統領選挙の結果「もしトラ」が「またトラ」となつてしまいました。トランプ氏のファーストネーム「ドナルド」の語源は、「世界の支配者」だそうです。ちなみに故レーガン大統領の「ロナルド」は、「神の力を持った支配者」の意味となります。それぞれ親が良かれと思つて付けた名前でしょうが、名は体を表すとも言いますし、ちよつとこわくなりませんか。

児童発達支援事業「宇宙」Instagram始めました



療育の様子をご紹介します。  
QRコードよりぜひご覧ください



# 災害対策訓練報告

地震や風水害が毎年のように発生している昨今、昨年も日本国内において、1月には能登半島にて震度7、4月には豊後水道にて震度6弱、そして8月には日向灘で同じく震度6弱の大きな地震が発生しました。8月の日向灘地震では当センターのある久山町でも震度2の揺れを感じました。

久山療育園では、防災の取り組みとして毎月避難訓練を実施しています。防災に対する意識の向上を目的とした各部署での初動訓練や、全体での避難訓練などです。また内容も火災、地震、風水害などを組み合わせて実施しています。そのなかで、2024年10月11日(金)福岡県内で大規模地震が発生したとの想定の下「災害対策訓練」を実施しましたので報告します。

第1部では、地震発生直後の動きの確認です。まずは自身の身の安全を確保し、揺れが収まったことを確認したうえで、被害状況を確認します。利用者、来園者、そして職員に被害はないか、建物、ライフライン等への被害はないかなどの確

認を行います。以上の内容を災害発生直後に立ちあがられた災害対策本部に報告し、情報を集約する訓練を併せて行いました。



第2部では、地震発生後の停電時での動きの確認が行われました。地震によりライフラインが停止し停電になったとの想定です。当センターには医療機器もありますので、電源の確保も必要です。当センターでは停電した際は自家発電設備が自動的に稼働し、非常電源に切り替わります。この非常電源は医療機器など必要最小限のものに優先して使用するようにしています。電気、ガス、水道が止まってしまった際の生活の支援をどのようにするか訓練です。また、その様な状況下にお

いて、食事についての訓練も併せて行いました。通常の食事が提供できないため、備蓄している非常食を使用します。エレベーターも使用できないため、職員が階段で運ぶ訓練です。



入所している利用者の方だけでも90食ほど必要となります。運んだあとは1人1人の食事の準備です。普段であれば、エプロンをつけたりタオルを使ったりしますが、必要なものは使用できません。使い捨てのものなどで代用します。お皿などの食器類も使い捨てのものとなりま



の速やかな復旧による「事業継続」を目的としていることが特徴です。

2024年4月からBCPの策定が義務化されました。当センターでも「BCP策定会議」を定期的に開催しており、今回初めての訓練開催となりました。訓練概要は、「震度5の地震発生によりライフライン停止。災害発生後1週間を乗り切ることを前提に、まずは3日間の緊急活動を机上にてシミュレーションする」とし、どのようにして事業を継続(利用者の生活を支援)していくかを、グループワークなどで話し合いました。初めての試みではありましたが活発な意見が交わされました。

これからの訓練はBCPが土台となり進められていく事になります。様々な災害に対応できるようにするために、これからも訓練に取り組みしていきたいと思っております。

(防災委員会副委員長 山口真一)



さらに今年度は「BCP」における訓練も実施されました。BCPとは、日本語で「事業継続計画」と訳されます。その名の通り、緊急時における事業継続のための方針・体制・手順などをまとめたもので、被害の最小化と事業の早期復旧、そして事業活動の安定を図ることを目的としています。BCPと混同されがちなものとして、「防災計画」があります。防災計画とは、非常時の対応を事前にまとめ、災害による被害を最小限に留めるための計画のことです。BCPとの違いは、計画の主たる目的です。防災計画では、災害を「未然」に防ぎ「従業員の命や法人の経営資産を守る」早期復旧を目指す「ことに主軸を置いています。それに対し、BCPは「災害後」

# 第55回 公開講座について

研修研究委員長 荒金 幸

11月29日(金)に、第55回 公開講座が開催されました。

今年度のテーマは、「目に見えない虐待」専門職の感性を高め、不適切行為を考える」です。昨今テレビなどで様々な虐待が報道されています。あらゆる施設で人権や虐待についての研修会が行われているにも関わらず、依然として虐待などの人権侵害がゼロになっていないのも現状です。そのため看護や介護を行う私たちは、基本的な人権感覚を持ち続け、毎日の業務の中で振り返り、専門職としての感性を高め、考え続けていくことが求められます。

今回の公開講座では、講義聴講のみでなく、グループワークを企画し、自分の考え方や行動の特徴などを振り返り、不適切行為はどのようにして起こりえるのかを考え、実践できるようにと企画いたしました。

また、これまで感染対策により、半日での開催でしたが、今年度からは通常のスタイルに戻り、午前午後と充実した内容で公開講座を企画することができました。



プロگرامは、午前に、福岡県立大学人間社会学部 准教授 寺島正博先生 「障がい福祉サービス事業所で起こる無自覚の不適切行為の理解」というテーマで講演がありました。

この中では、「虐待防止を図るためには、まず虐待よりも寧ろ軽微や些細と受け取られやすい不適切行為に着目する必要がある」とことや「不適切行為の段階における防止が重要であること」。また「従事者が自身の行動、感情、嗜好に対する認識が不完全または欠

如している状態が起こる虐待。つまり従事者が虐待している」と理解していないこと、つまり無自覚な虐待があること、職場でどのようなものが不適切行為か考えて、職場内で共有していくことこそが虐待を未然に防止するカギになることを学びました。



午後からは、「自覚のない不適切な支援について」というテーマで当センター療育指導室長 島津洋昭より、話題提供が行われ、当センターの「虐待防止チェックリスト」の集計結果の報告がありました。

見た他人の支援」では約30%の人が「ほかの人が虐待、もしくは不適切な支援を行っているのを見たことがある」と回答していました。このことより、寺島先生の講演でもあったように「無自覚な状態での不適切な支援」があり、自分では気づいていないかもしれない人がいることが明らかになりました。



その中で「自分から見た自分の支援」では、ほぼ100%の人が「自分は虐待や不適切な支援は行っていない」と回答したのに対して、「自分から

以上が参加しました。グループワークでは、他施設との情報交換もでき、どのグループも時間いっぱい盛り上がりつつある様子を感じられました。

参加者は、九州県内の重症児者施設の職員や相談支援センターの職員など31名、また当センターのスタッフも30名

発表後には福岡県立大学の寺島准教授より「事例についての視点」として、事故防止のための教育とトレーニング方法や職場体制の強化と見直しの視点、ご家族への対応の充実として、事故発生時の報告や第三者機関の導入やテクノロジーの活用などがあげられ、グループワークの発表でもあったことをしっかりと言語化し提示してくださいました。

一日充実した公開講座になり、参加者の感想は「講義を聞くのみでなく自分たちの施設の情報交換になってよかった」「自分の価値観や考え方の理解につながった」「明日からも施設内で継続し取り組んでいきたい」など、自分事として学び、各施設がそれぞれ今後の課題をとらえ、行動していき一歩になったのではないだろうか。

# 2024年久山療育園クリスマス

新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行し、一年半余りが経過しましたが、未だ終息には至っておらず、加えて、インフルエンザの流行が全国的に広がっている状況です。そのような中、12月19日(木) 13時30分より、地域交流ホールにて、讚美歌と聖書朗読でイエス様のご降誕を祝い、踊一郎理事よりクリスマスメッセージが伝えられ、ご出席いただいた皆さまと共にクリスマスのお祝いをすることができました。

昨年に引き続き、蠟燭礼拝や聖歌隊を中止する等の感染対策を設けながらも、今年は、来賓として保護者会役員、理事・監事の皆さまに加え、教会関係者の皆さまをお招きしての開催となりました。また、玄関ロビーでは作品展販売を行うなど、少しずつ賑わいを取り戻しつつあります。

来年こそはより多くの方々とマスクを外し、笑顔で集える「クリスマス」を開催できることを切に願っています。

(クリスマス実行委員会)



## (公)JK Aより補助頂き、 特殊浴槽の整備を行いました



(公)JK Aは、競輪・オートレースの収益を広く社会に還元し、社会貢献を果たすため、社会福祉法人等に対する補助事業を行っています。

今回、ひかり棟Cチームの特殊浴槽整備について応募したところ、助成が決定し、3/4の費用を負担していただき整備することができました。

以前はチェアタイプで座位が取れないと入浴することが難しかったのですが、姿勢の制限がないため、どの利用者も入浴が可能となりました。皆さんお風呂に浸かれることを喜ばれていて、浴槽の中で身体をリラクゼーションさせ、ゆっくり入浴をされています。職員もストレッチャーを介助者の身長に高さを合わせることができ、介護負担が大きく減りました。本当にありがとうございます。

(事務部 担当課長 松川 寛)



# 病棟イベント



「祝！久市楽座開店しました」  
 楽しいゲームセンターが交流ホ  
 ルに開店しました。  
 みんな入場券を手にしてワクワク。  
 早く行きたいよーの表情にスタッ  
 フもワクワク度が増してきます。  
 太鼓の達人では、楽しい音楽に合  
 わせ太鼓をドン・ドン・ドンと叩く  
 にぎやかな音が聞こえたり、マリオ

カートでは「いけー」「あー」「頑  
 張れー」の威勢のいい声が聞こえ  
 ていました。プリクラやガチャガ  
 チャ・ゲームなどたつぷりと遊び  
 つくした1日でした。  
 (めぐみ棟 療育員 栗山真由美)

## 「今年もやってきたクリスマス」

12月18日クリスマス会がありました。サンタさんとト  
 ナカイさんがプレゼントを持って病棟に登場すると、皆さ  
 んの表情が一気に明るくなり、サンタさんがプレゼントを  
 手渡すと、最高の笑顔になる方、うれしくて声が出てし  
 まう方、サンタさんの姿に驚いて固まってしまおう方など普  
 段の生活ではなかなか見ることのない様子がありました。  
 その後、スマイリングホスピタルジャンの演奏では、  
 歌をじっと聴いたのち、手拍子をしたり、手遊び歌のよう  
 に手をスタッフと一緒に動かして楽しまれていました。  
 今年もとっても賑やかなクリスマスになりました。

(ひかり棟 保育士 大浦真妃)

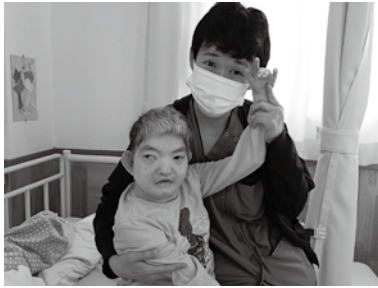


# めぐみ棟より

「仲良くなったよ!」

入職して1年未満のスタッフさんといろいろな活動に参加しています。あっ!という間にみんなを笑顔にさせている新人スタッフさん。

利用者さんもスタッフさんも仲良しになる名人ですね!新人スタッフさん、これからももともととみんなを笑顔にしてください。



「いつまでもパワフルで元気でいてください」



「これからも仲良く活動に参加しましょうね!」



「一緒に端座位楽しいね!」



「素敵な笑顔に癒されています」



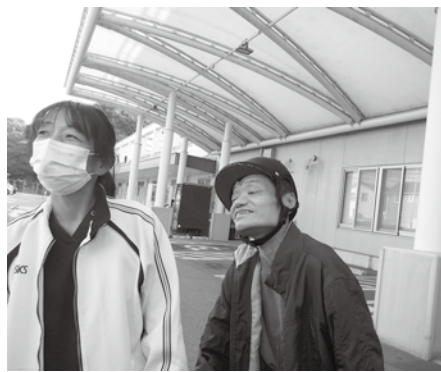
「ドライブ気分楽しかったね」

# ひかり棟より

「コミュニケーションサークル活動頑張っています!」

少しずつ寒くなってきた今日この頃、ひかり棟の皆さんはコミュニケーションサークル活動を頑張っています!

10月・11月は高橋池まで大冒険&園内散歩を実施しました。



高橋池までの道のりは刺激がいっぱい!ボランティアの皆さんが手入れて下さっている綺麗なお花を見て、癒されます!  
みんな揃って信号を渡り、坂道を登ったら周囲の自然を眺めながら高橋池に到着です!  
みんなでどんぐりを見つけました。

園内散歩も楽しいことがたくさんです!ピアノを弾いたり鈴を鳴らしたりと楽しいことを見つけました!

病棟の外ではいろいろな方に出会います!通所の職員さんや他病棟の利用者さん!ホームや通所の利用者さんとはまだ交流が難しいですが、何をしているのかな?と窓越しに挨拶をしました!

10月・11月はたくさんの人や自然と出会い楽しく真剣に取り組めたコミュニケーションサークル活動でした。

サークル活動では毎月その月にしかできない楽しい活動を実施しています。

これからも皆さんの色々な一面が発見できる活動を開催予定です!

(ひかり棟 保育士 山下莉奈)



# 通所で頑張っています

## 「通所クリスマス会☆」

コロナで開催できなかったクリスマス会が、約5年振りに開催されました！

開催されるにあたって、みなさんワクワクされている様子でした。

プレゼントのペン立てを作ったり、活動の中で集めた言葉を「あわてんぼうのサンタクロース」の曲に替え歌し、また、オリジナルソングを作りました♪練習もたくさんして開催に向けて準備をしてきました。

そして、いざ本番!!ゲストの方と一緒に歌うことができ、感動しました。スタッフによる出し物もあり、団扇を振ったりと楽しまれていました☆

抽選会など様々な催し物があり、参加された皆さんの笑顔がたくさん見ることが出来ました！

(通所 介護福祉士 長嶋奈美)



「ピース☆」



「何がでるかなー？」



「キャンドルサービス」



「ゲストの「NEW MOON」さん！」



「スタッフによる出し物♪」

## 外来 療育 宇宙

### 「おいもほり」

今年も交流ホールにお芋畑が出来ました。「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声と共に、お芋遊びをして、みんなでお芋畑へ出掛けて行きました。目の前の畑を見ると、その光景に一瞬戸惑う姿もありましたが、お母さんと一緒に芋つるに手を伸ばし、みんな「ギュー」と握って、「うんとこしょ、どっこいしょ」と力強く引っ張っていきました。すると中からお芋が顔を出し、さらに力を入れて、引っ張る事が出来ました。お芋ほりが初めてのお子さま、去年は触れなかつたお子さま...などなど。でも今年は手足に土が付いても大丈夫!!

みんなで秋の収穫を大いに楽しむ事が出来ました。そんなお子様の様子を見て大きな成長を感じた時間でもありました。

持ち帰ったお芋はどんなお料理に変身したのかな。

(通所 保育士 汐田美賀)



# 重症者ホームひさやまより

## 「がんばるまへ、おじゃったもせう」

11月のある日、グループホームでは朝から職員がいそいそと昼食の準備をしていました。お昼ごろになるとリビングにあるキッチンからは良いお出汁の香りや楽しいような声が聞こえ、居室からリビングへやってきた入居者の皆さんもその様子と雰囲気を感じられていたようでした。

そして昼食時間とともにテレビのチャンネルは鹿児島島の観光地が映し出され、メインテーブルにはメニュー表とバイキングセットが並びご当地トークが始まりました。

グループホーム独自で活動しているお食事向上委員会という係では、アイデアを出し合って様々なイベントを計画しています。そのひとつである「ご当地フェア」は九州各地の郷土料理や定番グルメを手作りしたり産地直送でお取り寄せしたりして食事を楽しんで



「ご当地トーク」



「盛り付けはご自由に～  
(バイキングの様子)」



「味わうように  
食べられていました」



「テーブルセッティング」



「鹿児島出身の職員が  
おすすめする  
グルメ3品！」

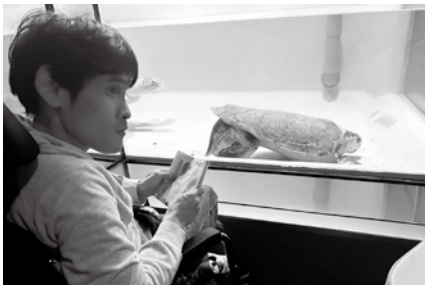
らえるよう工夫を凝らしています。前回は宮崎名物のチキン南蛮とだご汁、今回は鹿児島名物のさつま揚げ・鶏飯・スイートポテト。さて、次回はどこの名物が登場するのでしょうか。 (重症者ホーム 介護福祉士 松元りか)

## 「マリンスワールドに行ってきました」

11月12日、天気は快晴！久しぶりの小グループ外出です。楽しみでワクワクしながら車に乗り込みます。向かうはマリンスワールド！どんな魚がいるかな？イルカのショーが見たい！お昼ご飯は何食べよう？と車内は大盛り上がりです。

マリンスワールドに着くとすぐにイルカ・アシカ・クジラのショーが開催されていました。イルカの大ジャンプやアシカの輪投げショーにクジラによる水掛け等様々な演目を楽しみました。音楽を聴いたり、拍手したりとそれぞれの楽しみ方をさされていきました。

ショーの後は昼食です。カレーやパスタ・うどんにハンバーガーとたくさん種類がある中、ポロネーズとカツカレーをそれぞれ選ばれ、美味しくペロリと食べられました。



「亀とハイチーズ」



「ツリーもありました！」

「大きなサメがいたよ」



おなかいっぱいになったところで散策開始です。ペンギンやスナメリ、大きな水槽はサメやイワシの大群、チンアナゴのコーナーもあり、それぞれの水槽で立ち止まっては見上げたり、のぞき込んだりと興味津々の様子でした。 たくさん散策したら、最後にお土産を買って大満足でホームに帰宅です。とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。山元さん、的場さんは1日、満面の笑顔で過ごされました。 (重症者ホーム 介護福祉士 前田宏美)



# 新入職員の皆さん

2024年度春以降に新しい仲間  
11名をお迎えしました。  
感謝とともにご紹介します。

(入職日・五十音順)



- ①西田 佳苗 (介護福祉士/通所)
- ②二年期、久山療育園を離れていまし  
たが、以前と変わらぬ思いで利用者  
さんのより良い生活の為に頑張  
りたいです。
- ③長所…楽しいことが好き。  
短所…心配しがち。
- ④利用者さんの声に耳を傾け、ご家族  
の思いを大切に楽しい時間を共有  
したいです。



- ①岩尾 仁美 (看護師/めぐみ棟)
- ②利用者さんが安心して笑顔で過ご  
せるよう頑張りたいです。
- ③長所…体力がある。  
短所…マイペース。
- ④利用者さん家族の思いに寄り添い  
ながら関係を築き、安心して利用者  
さんを預けられる関わりをしてい  
きたいです。



- ①木村 恵理子 (看護師/めぐみ棟)
- ②利用者さんの健康状態を保ち、思い  
をくみ取ること、楽しく楽に生活  
していただきたい。そのためにも多  
職種と協働、連携を図り、一人一人  
に寄り添った看護をします。
- ③長所…明るく前向きで社会的。  
短所…慎重派だがマイペース。
- ④信頼関係を構築し、利用者さんと家  
族の協力のもと、より質の高い医療  
を提供できるように努めたいと思います。

- ①名前・職名・部門配置
- ②久山療育園で働くことについての抱負
- ③長所・短所
- ④利用者の方や家族とどのように  
関わりたいですか？



- ①中山 加代子  
(調理員(栄養士)/栄養課)
- ②利用者さんが喜んでもらえるよ  
うな美味しい給食を作ってい  
きたいです。
- ③長所…おらかな所。  
短所…緊張しやすい。
- ④相手の立場に立って接したいです。



- ①長井 智彦 (事務員/事務部)
- ②利用さんが快適に過ごせる環境  
づくりの一助を担えるように頑  
張っていきます。
- ③長所…チャレンジ精神が旺盛。  
短所…神経質などところがある。
- ④相手の立場に立ち、絶えず笑顔  
で接していきたいと思っています。



- ①坂本 彩 (保育士/託児所)
- ②他職種と連携し、子どもたち、利  
用者さんの最善を考えていきます。
- ③長所…やるりと決めたことは気長  
にやります。
- ④いつも笑顔で、子どもに共感した  
関りをしたい。ご家族と一緒に成  
長を喜びたい。



- ①市野 綾香 (看護師/ひかり棟)
- ②早く慣れることが出来るように  
頑張ります。
- ③長所…穏やかな所。  
短所…朝が苦手な所。
- ④利用者さんや家族の気持ちや価  
値観を尊重して関わっていき  
たいです。



- ①今泉 弘幸 (運転手/通所)
- ②利用者さんと一緒に頑張ります。
- ③長所…人当たりが良い。  
短所…口下手で話が苦手です。
- ④利用者さんの話を聞いて、一緒  
に話が出来たら良いなと思いま  
す。



- ①藤井 綾 (看護師/めぐみ棟)
- ②久山療育園の一員として楽しく  
笑顔で頑張ります。
- ③長所…明るくポジティブ。  
短所…樂觀的すぎる。
- ④安心・安全・誠実な対応を心掛  
け、信頼される存在となれるよ  
う関わっていききたいです。



- ①飯田 久美子  
(看護師/めぐみ棟)
- ②コミュニケーションを大切に積  
極的に学んでいきたいです。
- ③長所…多趣味。  
短所…深く考えすぎる。
- ④利用者さんや家族の皆さんが安  
心できるよう、誠実に対応して  
いきたいです。



- ①岡本 葵 (看護師/ひかり棟)
- ②利用者さんと一緒に笑顔で楽し  
い日々を過ごせるように頑張  
ります。
- ③長所…穏やか。  
短所…おとなしい。
- ④利用者さんやご家族の思いを理  
解し、安心して過ごせるよう  
に関わりたいです。

# ボランティアだより

## 「ボランティア講習会の報告」

11月9日(土)に「ボランティア講習会」を無事に開催させていただきました。

今回は9名の方が、ホームページや西日本新聞に掲載された文章を見て応募来園されました。年代も様々で興味を持っていただいていた感謝しています。

ボランティア講習会の内容としては、今年度も現役ボランティアの野田紘美様・仲田京子様2名に参加を依頼し、久山療育園のボランティアについての思いや役割等、様々な質問に対して参加者の皆様へ丁寧に回答いただき、また、非常に心に残るインタビュ形式による体験談をお話ししていただきました。

施設内の見学では、車いすの操作や体験を行いながら回っていただき、普段とは目線が違う中での不安や大変さなども学んでいただきました。

今年度より、病棟内にも見学に入ることができ、入所されている利用者さんも久々の外部からの来訪者に嬉しい表情や驚いた表情をされていたとの報告を受けました。

このボランティア講習会の目的は、以前にも「愛の手を」に掲載しましたが、ボランティア委員会の目標でもある①ボランティアの方々のつながりを持ち続ける②ボランティアの方々にこれまでの感謝を伝える③ボランティア活動の継続・新規活動者の開拓の三つを挙げています。やはりこのボランティア講習会はこの目標を達成するにあたり大切な機会であると考えます。

また、このような機会については、久山療育園で働いている職員にも非常に重要な機会になるのではないかと考えています。なかなかボランティアさんとの触れ合いの機会のない中で、このような働きを見てもらい、聞いて、感じてもらう機会については、久山療育園の理念の継承にもつながっていくものと考ええます。今後は、積極的に現場職員への参加も促していけるよう取り組んでいきたいと考えています。

(ボランティア委員長

島津洋昭)

### 【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールがございます。「興味があるけど、どんなことをするのか心配...」「行ってみたいけど、手続きは?」など、いつでもご質問いただけるようになっています。お気軽にご利用ください。

[bora@hisayama-smid.jp](mailto:bora@hisayama-smid.jp)



## 2024年12月よりボランティア送迎バスの停車・乗車位置の変更を行いました

### ●停車位置の変更

《変更後》10:00発

天神・福岡中央郵便局横のパーキングメーター  
(変更前:日本銀行前)

### ●停車場の新設

10:15発 吉塚駅前ロータリー(西口)  
10:20発 箱崎駅前ロータリー(東口)

### ① 10:00発

天神・福岡中央郵便局  
天神・福岡中央郵便局横のパーキングメーターのある場所にボランティアバスが駐車しています。  
(9:45~10:00)



### ② 10:15発

吉塚駅前ロータリー(西口)



### ③ 10:20発

箱崎駅前ロータリー(東口)



ボランティアの方々が安全、安心して乗車できる状況が、未来のボランティア増加に繋がればと願っています。

ボランティアおよび乗車の件につきまして不明な点がありましたら、久山療育園(Tel. (092) 976-2281) までお気軽にお問い合わせ下さい。



ご協力ありがとうございました

(2024年9月1日〜11月30日) 敬称略

【法人】

一般献金

秋永由美、飯田節子、石橋大海、磯谷潔子、岩永知秋、梅田淳子、甲斐丈士、(株)ロジテム九州、木戸美沙、キムマルソン、窪田次男、志満秀武、匿名、坂口繁和、下山由美枝、白形和子、西南学院高等学校生徒会、西南学院バプテスト教会姉妹会、第一保険(株)、高島克代、つくしんぼうの会、堤秀幸、鉄炮塚章、戸島栞子、土地家屋調査士法人エビス、仲田京子、日本バプテスト大阪教会、野方キリスト教会山下昭子、野田絃美、久山療育園物品販売(開園祭)、久山療育園手作品売上、平野幸枝、福岡聖書キリスト教会、福田靖、船津丸泰、宮崎信義、室蘭バプテストキリスト教会、銘茶かおり園、山田いずみ、横溝直江、横溝玲子

(以上252,932,978円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、重症者ホームひさやま家族会、霧恵美、中島洋子、久山療育園重症者ホームひさやま入所者、久山療育園献金箱

(以上72,026円)

【施設】

一般献金

入山秀美、大場清子、大原信幸、緒方隆司、川名幸重、草場美恵子、久保山信・敬子、古賀和男、古賀譲二、古賀成、鮫島経男、鮫島隆之、新藤賢恵、佐知子、田上洋子、立石有梨佳、田中節子・由美、花原章二、東倉忠勝、久山療育園保護者会、父母の会松尾国利、又野洋子、松尾貴光・勇一、松永ヒデ子、間部和子、牟田逸雄、村津俊博、森永清治、安河内清美、矢津美和子、梁瀬ゆかり

山口吉昭、吉見ナツ子、米田利夫

(以上843,700円)

献品

大井バプテスト教会(タオルエプロン他)、川崎バプテスト教会女性会(タオルエプロン)、栗ヶ沢バプテスト教会(衣料品、後藤香織(切手他)、里屋(机他)、宗廣美代子(手作りシオルダーバック)、瀬尾江(絵本)、全国友の会中央部(雑巾)、園田由佳理(エプロン)、高倉博子(手作りバック他)、橋佳奈(タオル他)、長井妙子(プロジェクター他)、濱田彩子(タオル)、久山町役場(もち米)、福岡医療関連連業組合(アルコール)、福岡県理容組合(サロントオル)、防府バプテスト教会(タオルエプロン)、松尾国利(靴)、百田みゆき(新米)、山下昭子(タオル)

(以上153,767円)

献金申込先

- 1.《郵送》 社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会 〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869 久山療育園重症児者医療療育センター内 ☎(092)976-2281(代)
2.《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】 名義:バプテスト心身障害児(者)を守る会
3.《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888 名義:バプテスト心身障害児(者)を守る会 理事長 宮崎信義
4.《ホームページ》当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いてください。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますのでご利用ください。個人、会社共に免税の対象になります。
メール: hisayama@hisayama-smid.jp



クレジットカード献金は こちら

メモ帳

【10月】

- ▽2日 秋季新入職員オリエンテーション、誕生会
▽4日 誕生会、土佐希望の家医療福祉センター施設見学
▽6日 祭りひさやま(グループホーム参加)
▽11日 災害対策訓練(停電)、BCP(事業継続計画)訓練
▽12日 認定看護師研修会閉講式
▽14日 東久原運動会(グループホーム参加)
▽18日 第4回運営協議会、2024年度第2回評議員会
▽21日 経営会議
▽23日〜24日 秋の集い
▽24日 ひさやま福祉大学(災害について研修・久山町社協主催)
▽27日 第3回施設見学会
▽28日 久山町社協情報交換会(ランタナ)、福岡県北部地区在宅重症児者連携会議コア会議(Zoom)
▽29日 ひかり棟短時間園外活動
▽29日〜31日 後期職員健診
▽31日 福岡特別支援学校運動会(中学部)参加

【11月】

- ▽7日 初動避難訓練及び散水栓放水訓練、介護老人保健施設職員及び医療機関職員を対象とする重症心身障害児者の医療的ケア研修、令和6年度粕屋保健福祉事務所病院立入検査
▽9日 ボランティア講習会
▽11日 ひかり棟短時間園外活動
▽12日 託児所避難訓練
▽14日〜15日 第45回日本重症心身障害児者協会西日本施設協議会総会(徳島市)
▽18日 経営会議、ひかり棟短時間園外活動
▽19日 音楽会(スマイリングホスピタルジャパン(SHJ))によるアルハ演奏会
▽21日 福岡県北部地区在宅重症児者連

- 携会議(第15回)
▽22日 2024年度第3回理事会
▽25日 建築物定期調査
▽26日 消防設備点検、めぐみ棟園外活動、福岡地区児童福祉施設協議会施設見学研修会
▽29日 第55回公開講座

【12月】

- ▽3日 初動避難訓練
▽5日 めぐみ棟園外活動、ひかり棟短時間園外活動
▽11日 託児所避難訓練
▽12日 第57回福岡県重症心身障害施設協議会(福岡病院)
▽13日 ひかり棟短時間園外活動
▽16日 経営会議、福岡県北部地区在宅重症児者連携会議コア会議(Zoom)
▽18日 入所クリスマス
▽19日 園クリスマス礼拝
▽20日 通所クリスマス
▽24日 福岡特別支援学校2学期終業式

職員の異動

(2024/10/1〜12/31)

【採用】

- 10/5付 松木 智靖(療育員)
10/7付 今村 千恵子(療育員)
10/21付 中山 加代子(調理員(栄養士))
12/16付 岡本 葵(看護師)

【退職】

- 10/31付 安部 小百合(事務員)
11/30付 鬼塚 義則(事務員)
12/31付 笹原 裕恵(看護師)
▽富田 美恵(療育員)
▽徳留 美沙子(事務員)

# ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

## 「2024年度 年末街頭募金報告」

今年も4日間、年末の街頭募金を行いました。幸い、天候に恵まれ、雨や雪で中断することなく実施できました。また、参加人数も平均して与えられ、良い募金になりました。それでも競合する団体もあり、ビル風が強く吹く、寒い天神の街角で2時間の募金活動をするのは、身体にはこたえるものです。参加者の皆様、本当にご苦労さまでした。

こうして、今年も久山療育園に「共に生きる」連帯の募金を届けることができました。感謝し、ご報告させていただきます。有難うございました。

なお、これらは月例の募金とともに、まとめて久山療育園に献金します。

(重症児者と共に生きる

「ミットレーベン・ネットワーク」

会長 伊原幹治



実施日時	募金額	参加人数(教会・団体など)
12/21(土)	57,605円	14人(9教会・久山療育園)
12/22(日)	46,000円	21人(1教会・久山療育園・保護者会)
12/23(月)	80,521円	30人(13教会)
12/24(火)	36,930円	17人(7教会)
計	221,056円	82人

## 歩 行 器

11月14～15日に徳島で開催されました西日本重症児者施設協議会に出席致しました。中でも、熊谷晋一朗東京大学先端科学技術研究センター教授の講演「障害者の自立とは」は印象的でした。ご自身も障害を負い車いすの生活を送っておられる方でした。そして考えさせられた話題は、障害のない人からみた考えと、障害を負った人から見た考えに食い違いが起きる事でした。「障害があっても自分で出来ることはなるべく自分で出来るように」と支援する側は何気なく(無自覚に)発してしまうことがあります。確かに障害があっても時間をかければ何とか出来ることもあります。例えば、靴下を履くなど、相当な時間をかければ自分でできることもありません。しかし、そこに時間をかけて良いのか。と疑問が投げかけられました。自分で出来ることが良いと単純に考えてはいけないのではとの提言でした。時間は一日24時間と平等に与えられています。ならば出来ることにはなく、やりたいことに時間をかけることが、幸福感が増すのではないかと。

続いて、11月29日には久山療育園第55回公開講座が「目に見えない虐待」をテーマに開催されました。寺島正博福岡県立大学人間社会学部准教授より、「無自覚の不適切行為をテーマに講演頂き、先の研修での「障害者の自立を阻害するものと共通していると感じたところです。」

こうした研修会は、久山療育園の理念「重症児者と共に生きる」を基とした事業展開に、貴重な研修でした。

(T・N)

## 職員募集

- 【専門職種】
  - 介護福祉士・保育士・介護職員実践者研修及び初任者研修修了者(重症心身障害児者への日常生活の介助業務)
  - 食事介助、入浴介助、療育活動等)
  - 看護師(重症心身障害児者への看護業務・医療処置)
  - 園内相談支援員(入所者の計画相談・ケースワーク)
- 以下いずれかの資格を所有で可(社会福祉士、介護福祉士、相談支援専門員)
- 事務員(医療事務経験者)
- 【その他の職種】
  - 日常生活補助業務(洗い物、リネンの片付け、利用者の衣類の片付け、日常用品の後片付け、居室清掃、ベッド寝具整頓など)
- 【雇用形態】
  - 「正規職員」及び「パートタイム契約職員」

【受付】久山療育園  
事務部担当課長 波田(ハダ)  
TEL(092)976-2281

※詳しくは、ホームページ「重症心身障害施設久山療育園 (https://hisayama-smid.jp/) またはQRコードをご覧ください。

重症心身障害施設  
久山療育園ホームページ  
<http://hisayama-smid.jp/>



求人情報